

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事			
住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	氏名 (法人にあっては、名称及び		
京都市左京区岩倉大鷲町422番地	財団法人 国立京都国際会館 館長	中村 順一	
		電話 075 -	

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	その他のサービス業 集会場
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者 (大規模エネルギー使用事業者 (原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者 (大規模運送事業者 (トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者 (その他の温室効果ガスの大規模排出事業者 (二酸化炭素に換算して3,000トン以上))
計画期間	平成 17 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月
基本方針	エネルギー消費効率の削減、廃棄物排出量の削減を目指す。(<19> 中間季 (春・秋) においてコージェネレーションの効率が低い為、ガスエンジン2台目の自動立上設定を遅らせた。)
推進体制	事務局長を筆頭に職員及び協力会社が連携しエネルギーの節減に努める。(<19> 昼休憩における事務所内の消灯について、前年に引き続き職員が積極的に行っており省エネ意識が高まっている。)

年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容
	19	施設部門	調光センサー付き照明器具の導入設置 (M棟5階・6階、S棟5階) (<19>平成20年3月設置)
	19	施設部門	CGSガスエンジン (全2台) 2,000時間毎メーカーA点検 (<19>平成19年12月実施)
	17~20	会館事務局	事務所内の空調適温化及びクールビズを実施する。(<19>事務所28℃、会場25℃設定)
	17~20	清掃部門	廃棄物処理においてリサイクルに出すよう努める。(<19>再生利用率 30.5%)
	19	施設部門	イベントホール展示場の照明・空調設備改修工事 (予算要求中)

温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度 (実績) (17) 年度 (二酸化炭素換算 (t))		目標年度 (計画) (19) 年度 (二酸化炭素換算 (t))		削減率 (計画) (%)	報告年度 (実績) (19) 年度 (二酸化炭素換算 (t))		削減率 (実績) (%)
	A 事業所等排出区分	3,862 t		3,786 t		-2.0 %	3905.0 t		1.1 %
	B 輸送車両排出区分	t		t		%	t		%
	C その他排出区分	t		t		%	t		%
	排出合計	*1 3862 t		*2 3,786 t		-2.0 %	*4 3905 t		1.1 %

その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度 (計画)				報告年度 (実績)			
		取組量等		(二酸化炭素換算 (t))		取組量等		(二酸化炭素換算 (t))	
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	府内産の木材の利用	(利用量)	m ³	(削減量)	t	(利用量)	m ³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(売電量)	kwh	(削減量)	t	(売電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	削減量等合計			*3	t	*5			t

差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度 (実績)		目標年度 (計画)		削減率 (計画)	報告年度 (実績)		削減率 (実績)
	*1	3862 t	(*2)-(*3)	3786.0 t	-2.0 %	(*4)-(*5)	3905.0 t	1.1 %

特記事項 コージェネレーションシステム導入・事務所内の温度設定の変更等を採用し、省エネルギー化に取り組んでいる。近年会議件数が増加傾向にあり、総エネルギー使用量についても比例して増加しております。しかしながら、省エネルギー未採用の設備に対して改修を行い省エネルギー化に今後共努力致します。(<19> 国費による大規模建築改修工事 (平成19年度国立京都国際会館建築改修工事) が年間通じて行われ、工事に伴うエネルギー使用量分が余計に掛かったと思われる。また、会議運営におけるスケジュール効率が悪く、夜間早朝の時間外に会議設営撤去を行わなければならない回数が多く、基準年度よりエネルギー変動幅が大きかったのではないかとと思われる。

連絡先	担当部署	
	担当者氏名	
	住所	
	電話番号	
	ファクシミリ番号	

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。
 (例) グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入
 5 「特記事項」には、平成2年度(1990年度)を基準とした排出量の対比やエネルギー単原単位CO₂排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達を採用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。